



第1回 (仮称) 地域・世代間交流部会 【摘録】



日時：平成24年9月25日(木)18:15~20:00

場所：宮前区役所保健福祉センター1階集団教育ホール

【進行：仮部会長 宮崎副委員長】

1 出席確認

欠席：平井委員

2 部会の進め方

第1回部会：フリートーク

第2回部会：挙げた意見を集約し、方向づけ

11月全体会：方向付けの報告

第3回部会：具体的な提案の検討

3 具体的な提案の検討

別紙のとおり意見集約

4 部会長選出

過半数の推薦により大槻委員を部会長に選出

5 部会名

未決定 第2回部会以降の検討課題

6 今後の日程

第2回 10月16日(火) 18:20~ 区役所4階第1会議室

■次回準備しておく資料

- ・区内わくわくプラザの現況
- ・今回挙げたキーワードに関する事例

テーマ：地域・世代間の交流

【総論】小学校区程度の徒歩圏内地域をベースに、世代や活動分野を越えた区民の交流、新たな参加層の確保などによる、地域コミュニティの場の形成を目指す。宮前区の特徴、教育を活かした取組みが何か考えられないか。

キーワード

小学校区・横のつながり・
世代交流・教育

課題：高齢化

- ボランティア活動者が高齢化している。60・70代のニーズに答える、活動しやすい環境づくりが必要。(太田)
- 自治会組織の高齢化、世代交代の難しさが見られる(山下・豊島・太田)
- シニアよろず相談では老後のあらゆる課題への対応が必要となっている(山下)

課題：新たな参加者の取り込み

- 地域の活動やイベントに参加するのは問題の少ない人、本当に困っている人をいかに参加させるか(大槻)
- ボランティアは「自分のためになる」ということをもっとうまくアピールしたい(田浪)
- 不安になると人は誰かとつながりたくなる。震災の際にはそれが顕著に現れた(田浪・山下)
- 新しい住民の方々とうまくコミュニケーションをとっていききたい(佐藤)

取組の方向性：世代・活動分野を超えた交流

- 高齢者が子育てに関わるなど、分野を超えた交流が必要。若い世代との交流を高齢者は非常に喜ぶ(直本・豊島)
- 初心にかえて、様々な団体が一緒に活動していくことが大切(佐藤)
- 既存の活動自体は元気に頑張っている。縦割り意識を超え、横につながっていくことが必要。(宮崎)

取組の方向性：小学校区をベースとした活動・交流

- 教育の価値観や環境は学区ごとに大きく異なり、区内一律には考えられない。(豊島)
- 孤独死・孤立死には地域レベルの対策が必要。自治会は規模が異なり、うまく機能していない例も(山下)
- 徒歩圏内である、小学校区をベースに地域を捉え、交流を図っていききたい(直本)
- 小学校をベースにすれば、親世代の関心や参加を得やすいのではないか(田浪)
- わくわくプラザはどのような場になっているのか。ただの託児になっているようではもったいない(大槻)

宮前区の特徴である「教育」を活かそう！

家庭教育、親教育の重要性

- あいさつなど家庭教育が大切と感じる(佐藤)
- 育児放棄などの問題も考えると、支援が必要なのは子どもよりも親ではないか(岡)
- 教育は世代間の問題、昔と今はつながっている(豊島)
- 家庭での父親、学校での教師の威厳がなくなった。子どもたちは大人の誰を信じたらいいのか(豊島)
- 自己責任感覚が薄れ、何事も他人のせいにしてしまう人が増えた(豊島)

既存の活動の現況

- 宮前区はおやじの会の活動がさかんで、ほぼ全校にあるようだが、地域との関係はそれぞれ。
- 親子学級の担い手も、他の分野や他の世代の活動にまではまだつながっていない(田浪)
- 向学意欲のある高齢者に答える場がまだ区内に充分でない(山下)

学校教育・地域教育・家庭教育を総合的に行い、子どもたちが健全に育つようにしていくことが一番(大槻)

知りたい

自治会内でのコミュニケーションの良事例(佐々木) / 小学校区単位で世代交流・コミュニティ形成の良事例・福岡県飯塚市など(大槻) / わくわくプラザの現況(豊島・田浪・大槻)